

9980

③

永 久 保 存
第 號

滿洲國ノ根本理念ト協和會ノ本質

昭和十一年九月十八日
關東軍司令部調製

數	紙	調製年月日
本	表	昭和十一年九月十八日
紙	紙	
八	二	
枚	枚	

133

1017

注 意

本精神ヲ部外者ニ傳フル場合ハ其人ト其處トニ應シ
特ニ慎重ノ用語ヲ以テシ就中 皇帝ニ關スル事項ハ
機密ノ儀ト承知相成度

昭和十一年九月十八日

關東軍參謀長 板垣征四郎

1018

滿洲國ノ根本理念並協和會ノ本
質ニ關シ茲ニ永久ニ之ヲ闡明ス

昭和十一年九月十八日

關東軍司令官 植田 謙吉

1019

一、滿洲建國ノ世界史的意義

階級闘争ヲ手段トスル蘇聯ノ世界政策ト資本主義ヲ基調トスル英米ノ世界政策トハ其ニ其內在的の矛盾ニ依リ幻滅ノ一途ヲ辿ルノ時、獨リ 皇道ニ依ル我帝國ノ世界政策ニノミ燦然タル光明ヲ認ム

滿洲建國ハ八紘一字ノ理想ヲ顯現スヘキ使命ヲ有スル大和民族ノ世界史的発展過程ニ於ケル第一段階ニ外ナラス
滿洲國經營ノ根本理念ハ權益主義即チ強權ニ依ル搾取思想ヲ排シ皇道ヲ基調トスル獨立國家トシテ之ヲ育成スルニ存ス
實ニ我大和民族ハ内ニ優秀ナル資質ト卓越セル實力トヲ包藏シツツ外ニ寛仁以テ他民族ヲ指導誘掖シ其足ヲサルヲ補ヒ努

メサルヲ鞭打チ、マツロハサルヲマツロハセ以テ道義世界ノ完
成ニ偕行セシムヘキ天與ノ使命ヲ有ス

彼ノ各種民族ヲ操縱離間シ其相剋ニヨリテ反噬ノ力ヲ奪ヒ或
ハ之ヲ故意ニ低文化、無氣力ニ導キ遂次絶滅セシメントスルカ
如キ權謀的欺瞞政策ハ我ノ斷シテ探ラサル所ナリ

治外法權撤廢ノ眞精神ハ即チ在滿大和民族力進シテ特惠的條
件ヲ放棄シ喜ンテ平等ノ境地ニ立チ堂々仁愛ヲ以テ他民族ヲ
指導啓蒙スヘキ決意ヲ内外ニ闡明シタルモノニ外ナラス

1021

二、建國精神ノ眞義

滿洲國建國精神トハ究極スル所、日滿一徳一心、民族協和、王道樂
上、道義世界ノ實現ノ理想トスル 天皇ノ大御心ニ外ナラス

1022

三、天皇ト軍司令官ト皇帝トノ關係

四

滿洲國ハ敍上ノ建國精神並建國ノ歴史ニ鑑ミ 天皇ヲ大中心トスル皇道聯邦内ノ一獨立國家ナリ
滿洲國皇帝ハ天意即チ 天皇ノ大御心ニ基キ帝位ニ即キタルモノニシテ皇道聯邦ノ中心タル 天皇ニ仕ヘ 天皇ノ大御心ヲ以テ心トスルコトヲ在位ノ條件トナスモノナリ、永久ニ天皇ノ下ニ於テ滿洲國民ノ中心トナリ建國ノ理想ヲ顯現スル爲設ケラレタル機關ナリ(其狀宛モ月カ太陽ノ光ニ依リテ光輝ヲ發スルニ似タリ)從ツテ萬一皇帝ニシテ建國ノ理想ニ反シ天皇ノ大御心ヲ以テ心トセサルニ至ルカ如キ場合ニ於テハ天意ニヨリ即時其地位ヲ失フヘキモノナルト共ニ他面民意ニヨ

139

1023

ル禪讓放伐モ亦許サレサルモノトス

滿洲國カ日本ト不可分ノ獨立國ナル眞義上述ノ如シ、從ツテ滿洲國ノ宗主權ハ實質上皇道聯邦ノ中心タル日本 天皇ニ在リ
皇帝ハ皇道聯邦内ニ於ケル一獨立國家ノ主權者タルヘク、關東軍司令官ハ 天皇ノ御名代トシテ皇帝ノ師傅タリ後見者タルヘキモノナリ

日滿兩國ノ間固ヨリ條約其他ノ關係ニヨリ律セラルル所アルモ滿洲國ノ育成ハ本質上 天皇ノ大御心ヲ奉シタル軍司令官ノ内面的指導ニ依ルヘキモノニシテ、日本政府ノ國務大臣カ輔弼上ノ責任ヲ以テ之ヲ指導スルカ如キハ獨立國家トシテ育成スヘキ理想ニ反スルモノナリ

四、滿洲國內面指導ニ關スル軍司令官ノ任務遂行

六

軍司令官カ 天皇ノ大御心ヲ奉體シ永久ニ滿洲國指導ノ重任ヲ負フヘキコト正ニ前述ノ如シ、然レトモ政治、經濟等ノ細部ニ亙リ自ラ之ヲ指導スルカ如キハ好ミテ之ヲ行フモノニ非ス、將來軍司令官ノ心ヲ以テ心トスル強力且公正ナルモノヲ發見シタル場合ニ於テハ軍司令官ハ其大綱ヲ把握シ政治、經濟、思想、教化ノ直接指導ハ之ヲ通シテ行ハシムルヲ理想トス

然ラハ如何ナルモノニ之ヲ期待スヘキヤ、眞ノ協和會員ヨリナル政府並協和會ノ各主腦者即チ是ナリ、眞ノ協和會員トハ軍、官、民ヲ問ハス民族ノ如何ヲ論セス建國精神ヲ體得シ皇道宣布ニ身命ヲ惜マサルモノ是ナリ

1025

從ツテ各民族ヲ通シ眞ノ協和會員タリ得ヘキ資質ヲ有スルモ
ノヲ簡拔訓練シ其精銳分子ヲ政府、民間ノ要路ニ配置シ得レハ
軍司令官ハ安ンシテ軍事ニ專念シツツ沈黙ノ威信ヲ以テ永久
ニ滿洲國指導ノ實績ヲ收メ得ヘシ

1026

五、軍司令官ト協和會ト政府トノ關係

八

建國精神具現ノ核心ハ 天皇ノ大御心ヲ奉シ滿洲國指導ニ任
スル關東軍司令官ナリ

建國精神ヲ政治上ニ發動顯現セシムルモノハ滿洲國政府ニシ
テ之ヲ思想的ニ、教化的ニ、政治的ニ實踐スルモノハ協和會ナリ
政府ハ建國精神ノ上ニ築カレタル政治機關ニシテ其官吏ハ正
ニ最高熱烈ナル協和會精神ノ體得者即チ眞ノ協和會員タルヘ
キモノナリ

從ツテ協和會ハ政府ノ從屬機關ニ非ス、又對立機關ニ非ス、所謂
「求ムルコトナキ絶對愛」ヲ以テ政府ヲ抱擁スヘキ精神の母體ナ
リ

1027

六、滿洲國政治ノ特質

一、滿洲國ニ於テハ議會政治ヲ否定ス

議會中心政治ハ民主政治ナリ、滿洲國ハ天皇ノ大御心ニ依ル道義世界創建ノ第一歩的顯現ナリ、從ツテ民主的、唯物的、西洋的政治ニ墮シ易キ處大ナル議會政治ハ滿洲國ノ本質上之ヲ採用スヘキモノニ非ス

二、滿洲國ニ於テハ專制政治ノ弊ヲ排ス

階級專制的「ソヴェート」政治又ハ武權專制的中國政治等ハ共ニ道義國家ノ運営ニ即セサルモノナリ、滿洲ニ關スル限りハ建國精神ヲ生命トシ指導原理トシ、之ヲ熱烈ニ實踐スル眞ノ協和會員ヲ民衆ノ指導者トシテ民族協和王道樂土ヲ實現セ

九

1028

シムヘキ獨創的王道政治ヲ採用ス

三、王道政治トハ何ソ

王道政治ハ哲人政治ナリ、支那舊來ノ王道思想ニ非スシテ
天皇ノ大御心ヲ顯現スヘキ意義ヲ有ス、支那ニ於テハ堯舜以
來王道政治論ノミアリテ王道政治存セス、是レ眞ノ哲人ナキ
ニ依ル

現下關東軍司令官カ滿洲國ニ於ケル王道政治ノ中心タル眞
義ハ軍司令官カ 天皇ノ大御心ヲ以テ心トスヘキ公人の哲
人ナレハナリ

而シテ此ノ公人の哲人ヲ中核トシ思想的、教化的、政治的實踐
ヲ以テ滿洲建國ノ理想ヲ實現スヘキ哲人の組織體タルヘキ
モノハ實ニ協和會ナリ

1029

七、協和會設立ノ歴史並其意義

協和會ハ舊東北軍權ノ暴政ニ對スル三千萬民衆ノ反撥ニ胚胎シ滿洲青年聯盟及雄峯會トナリ次テ國家ノ機關タル自治指導部等ノ建國運動トナリテ皇軍ノ討匪ニ隨伴シ軍司令官ノ指導下ニ於テ思想的、教化的、政治的實踐ヲ生命トシ建國ノ天業ニ參與シ克ク大和民族ヲ中核トスル各種民族合作ノ獨立國家建設ニ貢獻シタルモノナリ、即チ其發達ノ過程ニ鑑ミ協和會ノ重大ナル一使命ハ各民族間ニ道ヲ同ウシ義ヲ俱ニスル者ヲ獲得シ、扶植シ、擴大シ以テ眞ノ民族協和ヲ實現スルニ存ス而シテ滿洲國ニ於ケル獨創的ノ王道政治ノ完成ハ單ニ官吏ノミノ力ニ期待シ得ルモノニ非ス、蓋シ官吏ハ其觸ルル所自ラ官治

行政ノ分野ニ局限セラレ滿洲國育成ノ全面ニ及ハス、從ツテ眞
ノ協和會員カ政府ニ入り官吏トシテ統治ノ任ニ當ルト共ニ又
眞ノ協和會員カ野ニ在リテ民衆ヲ指導シ被統治ノ立場ニ於テ
民情ヲ未發ニ察シ正シキ民意ヲ政治上ニ反映セシムルト共ニ
民生ノ内部ニ滲透シ民衆生活ヲ向上セシメ眞ノ王道樂土ヲ實
現セサルヘカラス、協和會ノ期スル所正ニ此ニ存シ直接政治ス
ルヲ目的トセス、政治ヲ生ムヲ理想トス、從ツテ協和會ハ政權獲
得ヲ目標トシテ黨利黨略ニ趨ルカ如キ現存政黨トハ斷シテ其
軌ヲ一ニスヘカラス

協和會ハ其主張スル所權利ニ非ス、其實踐スル所法ニ縛ラレタ
ル義務ニ非ス、國民自體ヨリ湧發スル精神ニヨリ偕ニ自己ノ國
家ヲ完成セントスル建國團體ナリ、即チ結合スルモ私セス、實踐

1031

スルモ偏セサル所ニシテ又滿洲國ニ關スル限り協和會ヲ以テ
唯一永久ノ思想的、教化的、政治的實踐組織體トナス所以ナリ
職ヲ滿洲國ニ奉スルモノ誰カ建國理想ノ實現ヲ冀ハサルモノ
アラン、若シ夫レ官吏ニシテ此ノ理念ニ反スルモノアル時ハ宜
シク滿洲國外ニ退去セシムヘク、又政府ニシテ之ニ反スルモノ
ハ一日モ其存在ヲ許スヘカラス、眞ノ協和會員カ政府ニ入り又
ハ野ニ在リテ政治經濟ヲ指導シ國民ヲ訓練シ建國精神ヲ以テ
全國民ヲ動員スル時王道滿洲國ハ完成セラレヘシ

1032

八、協和會ノ將來性

一四

滿洲建國ハ八紘一字ノ理想ニ基キタル第一段階ナルコト前述ノ如シ、從ツテ協和會ノ祈念スル所ハ其第一次ニ於テ滿洲國ノ完成ニアリ、第二次ニ於テ逐次支那ニ、印度ニ、濠洲ニ、西比利亞ニ同様ノ王道國家ヲ完成スルコト是ナリ
實ニ協和會終局ノ大使命ハ皇國ノ道義的世界政策ニ隨伴シ之ニ寄與貢獻スルニ存ス

天皇ノ大御心ヲ奉スル萬國協和會本部ヲ東京ニ置キ支部ヲ全世界ニ分派擴充シ皇道ヲ八紘ニ光被セシムル時道義ニヨル世界ノ再建ハ完成セラルヘシ

149

1033